

伊藤レポートと証券指標の基礎

(ROE8%の経営に関して)

1. 伊藤レポートとは

伊藤レポートとは、一橋大学大学院商学研究科の伊藤邦雄教授を座長とする経済産業省のプロジェクトによる最終報告書「持続的成長への競争力とインセンティブー企業と投資家の望ましい関係構築」のことで2014年8月に発表されました。このプロジェクトの背景は、金融危機の反省から欧米で短期主義的な投資の是正やコーポレートガバナンスの強化が積極的に議論されたことにあります。日本においても、株主と企業経営の在り方や、情報公開の方法などについて企業経営者や長期投資家、市場関係者を集めて検討し、日本経済の企業の中長期にわたる価値創造を支援するべく、このプロジェクトが始まりました。最終レポートを国際的に発表することで日本市場が世界から適切に理解されることを目指します。

2. レポートの概要

- ①企業と投資家がともに持続的な企業価値の向上を目指すこと
- ②中長期的にROE向上をめざし、資本コストを上回る価値を創造すること(「資本コスト」を上回る企業が価値創造企業とし、その水準は個々に異なるが、グローバルな投資家との対話では、8%を上回るROEを最低ラインとし、より高い水準を目指すべき、と具体的な目標も提示)
- ③資金拠出者から実際に事業活動に使われるまでのルートを強化する
- ④企業と投資家の対話の質を上げ、建設的な関係を構築する
- ⑤経営者と投資家のフォーラムを創設し、中長期的な情報開示の在り方や建設的対話の構築など、制度上・実務上話し合う場を持つことなどが要点としてまとめられています。

3. 証券指標の基礎

1) ROE(株主資本利益率)

企業の収益性を測る指標です。株主資本(株主による資金=自己資本)が、企業の利益(収益)にどれだけつなげたのかを示します。

$$\text{ROE(株主資本利益率)} = 1株あたりの利益(\text{EPS}) \div 1株あたりの株主資本(\text{BPS})$$

$$1株あたりの株主資本(\text{BPS}) = \text{株主資本} \div \text{発行済み株式数}$$

計算式より、ROEが高いほど株主資本を効率よく使い、利益を上げて能力の高い経営がなされていることがわかります。逆に、ROEがあまりにも低い企業は、資金をうまく使えていないわけですから、経営が下手ということで、会社の存在価値が疑われてしまいます。

2)時価総額

基本的な時価総額は以下の数値で測れます。

$$\text{総発行株式数} \times \text{株価} = \text{時価総額}$$

3)EPS(一株あたり利益)

EPSとは、その会社が一年間に上げることができた利益(当期純利益)を発行している発行済株式総数で割ったものです。

$$\text{EPS} = \text{当期純利益} \div \text{総発行株式数}$$

4)PER(株価収益率)

PERは「会社の利益と株価の関係」を表し割安性を測る時に活用される指標です。一般的に、「PERが低ければ低いほど、会社が稼ぐ利益に対して株価が割安である」といえます。

$$\text{PER(株価収益率)} = \text{株価} \div \text{一株あたり利益}$$

5)BPS(1株あたりの株主資本)

$$\text{BPS} = \text{株主資本} \div \text{発行済み株式数}$$

○株主資本(かぶぬしほん)

「株主資本」とは、株主が出資した「資本金」や「法定準備金」、それを使って生じた利益の「利益剰余金」のことをいいます。別の言い方で「純資産」や「自己資本」ともいわれます。

$$\text{「資本金} + \text{資本剰余金} + \text{利益剰余金} + \text{自己株式}」$$

6)PBR(株価純資産倍率)

PBR(株価純資産倍率)は、「会社の純資産と株価の関係」を現しており、PERと同様に株価の割安性を測ることができます。これを使うと、企業の持っている株主資本(純資産)から見た株価の割安度がわかります。

$$\text{PBR(株価純資産倍率)} = \text{株価} \div \text{1株あたり株主資本(BPS)}$$